

# 日・フィンランド森林連携 ～脱炭素化を見据えて～



長野県林務部森林政策課  
企画幹 小澤岳弘

- 1 長野県の概要
- 2 連携・交流に至った経緯
- 3 フィンランド訪問とMOUの締結
- 4 連携・交流活動事例
- 5 今後の展望



# 1 長野県の概要



県土面積  
13,562km<sup>2</sup>

森林面積

10,680km<sup>2</sup>

森林率

79%

森林蓄積

2億m<sup>3</sup>



人口 (2021.10.1)

2,020,372人

地形



地質構造線や火山の影響により急峻な地形が多い

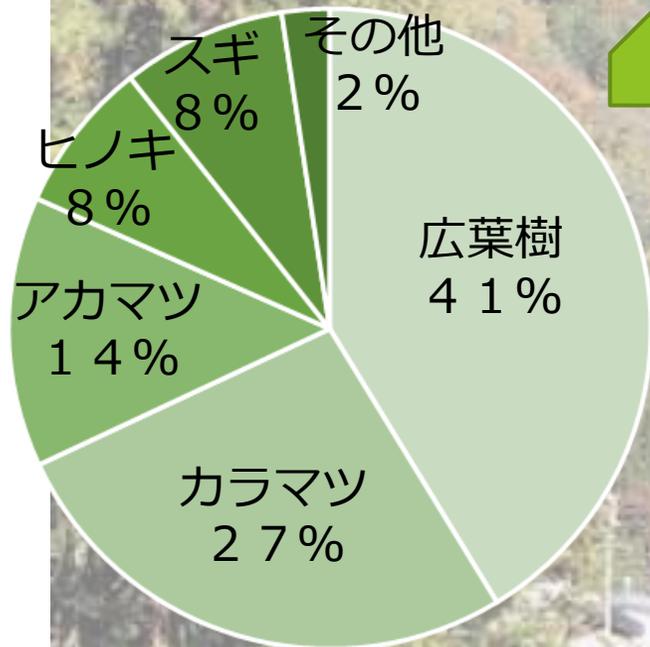
# 1 長野県の概要（森林）

## 特徴

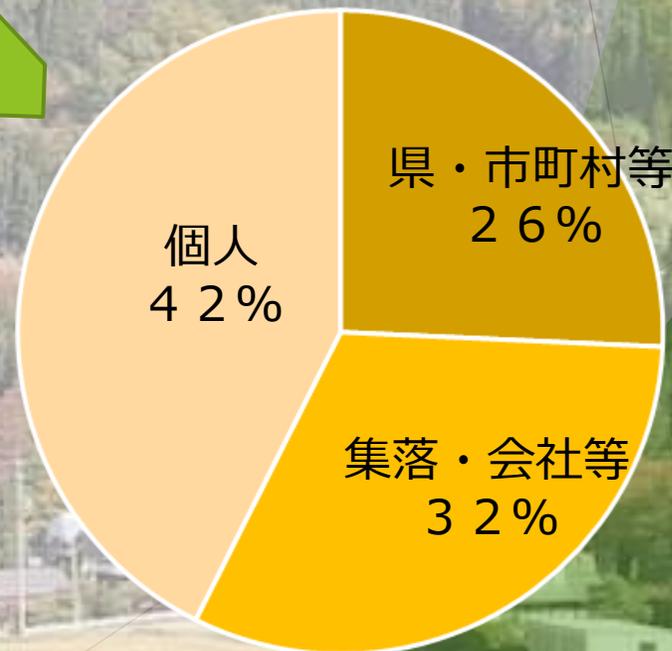
- ▶ 多様な樹種
- ▶ 個人の所有規模は零細（5 ha未満が30%）



民有林の内訳（樹種）



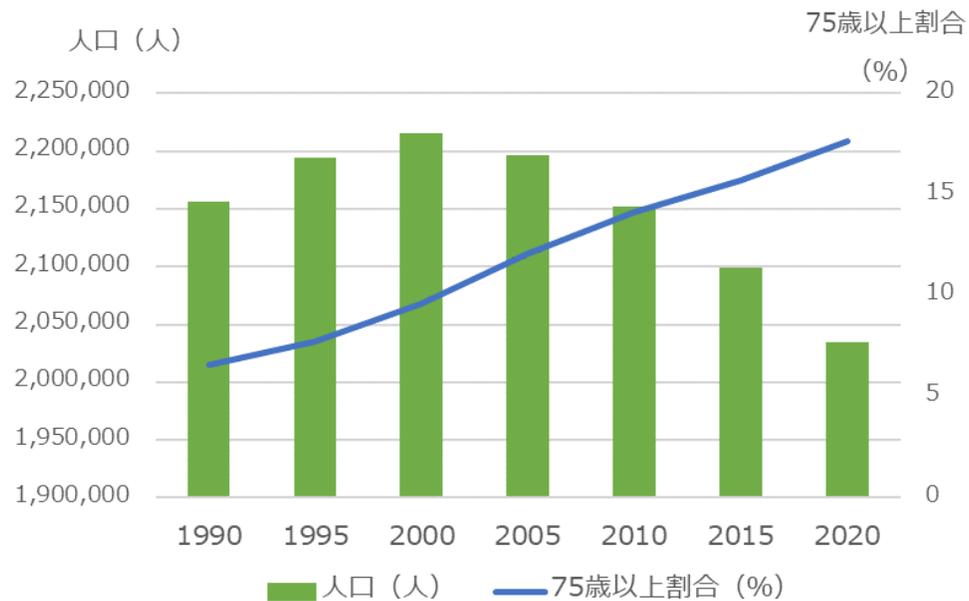
民有林の内訳（所有形態）



## 2 連携・交流に至った経緯

### 長野県の課題

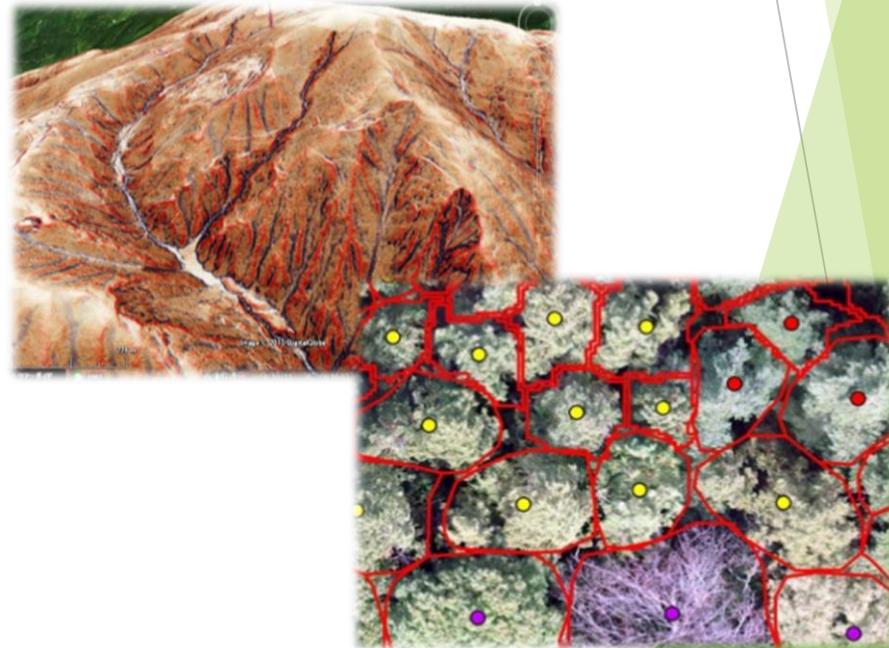
- ▶ 山村の過疎化、高齢化
- ▶ 森林の境界明確化の遅れ



長野県人口の総数と75歳以上割合の推移

### 必要な対策

- ▶ 最新の技術を活用した効率的な**森林管理手法**の導入



## 2 連携・交流に至った経緯

### 長野県の課題

- ▶ プラスチックの多用等、身の回りの木製品の少なさ
- ▶ 地球温暖化による災害の多発

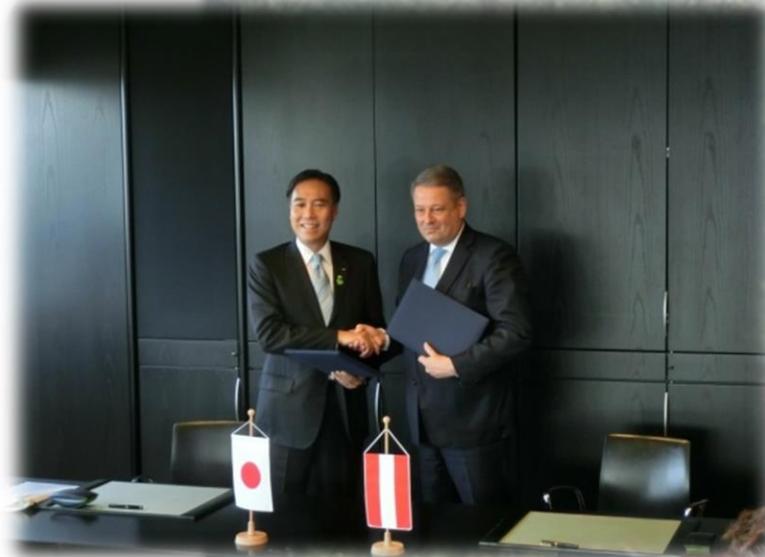


### 必要な対策

- ▶ 木や森等を活用した**バイオエコノミー**施策の導入、定着
  - ⇒ 木や森と人とのつながりの再生
  - ⇒ ゼロカーボンの実現



## 2 連携・交流に至った経緯



- ▶ 2015年に長野県がオーストリア政府機関と林業に関するMOUを締結
- ▶ これまでに、技術者の交流、林業機械の導入等により、優れた林業技術の県内での定着を図っている
- ▶ 交流の中で、**ICTを活用した森林管理、バイオエコノミー**等、先進的な取組が行われている国として、フィンランドを紹介された

### 3 フィンランド訪問とMOUの締結

#### ◆ フィンランド国内での視察等（2018、2019）

##### 訪問先

- ・ フィンランド農林省、林野庁
- ・ 欧州森林研究所（EFI）
- ・ 東フィンランド大学、カレリア応用科学大学、ラップランド大学、  
附属学校
- ・ ビジネスヨエンスー
- ・ アルボナウト社、ストラエンソ社、ジヨンディア社 ほか

### 3 フィンランド訪問とMOUの締結

#### ◆ 長野県と北カルヤラ県とのMOU（2019ー2024） 2019.10月締結

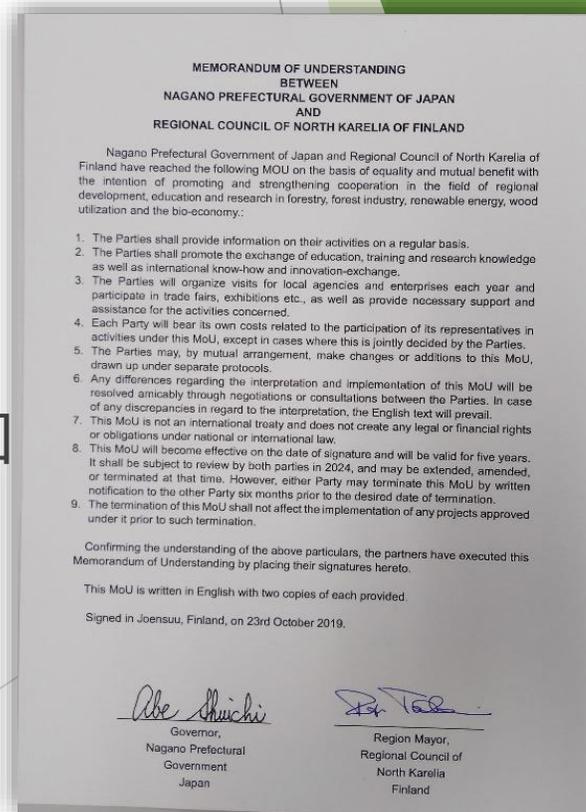
##### 分野

林業、森林産業、再生可能エネルギー、木材利用、バイオエコノミー

##### 内容

- ・ 定期的に活動に関する情報を提供
- ・ 教育、研修及び研究知見における交流
- ・ 国際的な技術情報、イノベーション交流の推進
- ・ 自治体機関・企業の視察や、見本市や展示会等に参加
- ・ 関係する活動に必要な援助や支援を提供

※長野県伊那市も同様に北カルヤラ県とMOUを締結



# 4 連携・交流活動事例

## ◆ 長野県等が主催するセミナーへの参加

- ・ 2021.10月 “これからの木材活用セミナー”
- ・ 木材利用推進を目的としたセミナーに、ビジネスヨエンスーの専門家がスピーカーとして参加
- ・ フィンランドにおける建築物やテキスタイルなど、多様な木材活用について紹介していただいた



日本みどりのプロジェクト JAPAN GREEN PROJECT Green Recovery プロジェクト

### WOOD CHANGE ! これからの木材活用セミナー

ゼロカーボンにつながる都市部での木材利用  
森を守って生かす森林認証材  
森林の活用と整備を目指す森林環境税  
山と地方と都市を巻き込むさまざまな動きの中、  
森と木をめぐる産業イノベーションへのヒントを探る

Photo (C) J.C. Carbone

**イントロダクション** 「これからの木材活用セミナー」の開催にあたって 12:30~12:40(10分)

**セミナー①** 建築物における木材活用のさらなる推進に向けて  
隈 研吾氏(建築家)  
1954年生。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名譽教授。国内外で多数のプロジェクトが進行中。国立競技場の設計にも携わった。主な著書に『点・線・面』(岩波書店)、『ひとの住処』(新潮新書)、『負ける建築』(岩波書店)、『自然な建築』、『小さな建築』(岩波新書)、他多数。

**セミナー②** 日本みどりのプロジェクト会員事例紹介  
「森林づくりは人づくり」  
高知県穂原町森林の文化創造推進課長 立道 斉氏  
「地域材を活かす！ 皆さんの地域の身近な木材有効活用事例」  
有限会社大丸木工所代表取締役 大谷 展弘氏  
飛騨産業株式会社 コントラクト事業部長 尾崎 哲也氏  
「売上・認知度を激増させる最先端マーケティング手法について」  
シエンプレ株式会社代表取締役 佐々木寿郎氏  
13:40~14:10(30分)

**セミナー③** 公共建築物等木材利用促進法の改正とこれから~すすめよう！ウツ・チェンジ~  
小木曾 純子氏(長野県木材利用課 建築物木材利用促進官)  
14:10~14:40(30分)

**セミナー④** 国産材時代のサプライチェーンマネージメントの課題  
鈴木 信哉氏  
(ノースジャパン素材流通協同組合理事長)  
15:00~15:50(50分)

**セミナー⑤** フィンランドにおける多様な木材利用の事例  
ティモ・ターバイン氏  
フィンランド・ビジネスヨエンスー(北カルヤラ県産業支援センター)  
森林バイオエコノミー専門家  
16:20~16:50(30分)【同時通訳 web 出演】  
※フリーディスカッションの中でご出演いただけます。

**フリーディスカッション** 15:50~17:00  
セミナー講師(隈研吾氏除く)と会場、WEB参加者による質疑応答及び意見交換  
コーディネーター:山崎 明氏(森林経営アドバイザー)

**日時:**令和3年(2021年)10月21日(木) 12:30~17:00  
**会場:**飯山市文化交流館なちゅら 大ホール

**参加費:**無料 **対象者:**自治体職員、森林・林業関係者、建築関係者等  
**会場定員:**250名 **WEB参加定員:**200名 (新型コロナウイルス感染症状況により、会場での参加を中止する場合があります。)

QRコード  
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上(受付で検温等)で実施いたしますが、当日はマスク着用の上、来場いただくとともに、体調不良の場合は、参加を控えていただきますようお願いいたします。

## 4 連携・交流活動事例

### ◆ 長野県とフィンランド教育機関がオンラインイベントを共同開催予定

- ・ 2022.2月 “国際学生ゼロカーボン会議”
- ・ 環境問題に関心のある学生が世界中から参加
- ・ 気候変動、サーキュラーエコノミー、マイクロプラスチック、森林資源をテーマに、オンラインで意見交換を実施予定



The banner features a scenic background of a lake and mountains. At the top left is the logo for 'Zero Carbon Conference for Students'. On the right, there are navigation links for 'HOME', 'お知らせ', and 'English Site'. The main title 'Zero Carbon Conference for Students' is prominently displayed in white. Below the title, the Japanese text reads '国際学生ゼロカーボン会議 Zoomウェビナーにて開催!' with flags of Finland and Japan. A paragraph of Japanese text describes the event: '気候変動や環境問題に関心のある長野県内の学生及び世界中の学生が集まり、意見交換を行う「国際学生ゼロカーボン会議」を2022年2月に開催します！会議はオンラインイベントとして開催されます。気候変動、サーキュラーエコノミー、マイクロプラスチック、森林資源という4つのテーマに分けて、世界中から専門家と学生のプレゼンテーションが行われます。' At the bottom, a white box contains the dates: '開催日時 | 2022.2.22 TUE. - 2022.2.25 FRI. フィンランド 10:00 - 12:00 日本 17:00 - 19:00'.

# 5 今後の展望

## ◆ 「気候非常事態宣言 -2050ゼロカーボンへの決意-」

- ・ 2019年 台風による大災害を契機に長野県知事が気候非常事態を宣言
- ・ 同時に、2050年にはCO2排出量を実質ゼロにすることを決意し、内外に向け発信
- ・ ゼロカーボンにつながる取組を一層推進



  
Sustainable Development Goals  
17 GOALS  
[Nagano Prefecture is a Future SDGs City]

### Climate Emergency Declaration "Go Zero Carbon by 2050"

Extreme weather events have been frequently affecting all parts of the world, including record-breaking heat waves, heavy rainfalls and large-scale droughts. The World Meteorological Organization (WMO) has announced that the extreme weather is consistent with the long-term global warming trends.

Typhoon Hagibis, which tore through Japan this October, caused massive damage to Nagano as well as many other parts in Japan. In recent years, it is said that climate change is a cause of frequent weather disasters in Japan.

Climate change threatens the survival of human society on the earth. I have an impending sense of urgency that we will not be able to hand over a sustainable society to the next generations if we sit still and fail to act on the emergency.

Responding to the Paris Agreement adopted in December 2015, the Japanese Government formulated a long-term strategy, aiming for a Zero Carbon Society as the final goal.

Nagano Prefecture has spearheaded the efforts to fight the global warming, and hosted this year's G20 Ministerial Meeting on Energy Transitions and Global Environment for Sustainable Growth. We also announced to the world an urgent call for an action on the climate change, the Nagano Declaration on Partnership for Collaborative Action for Sustainable Development.

The international community has been stressing important roles that local governments and NGOs play in the climate change, and they expect Nagano Prefecture to lead the way.

Now is the time for us to respond to the climate change to protect the lives of future generations using two approaches: Mitigation to reduce the climate change, and Adaptation to build cities that are resilient to disasters

Therefore, we hereby declare climate emergency, and, with determination to achieve zero carbon emissions in 2050, we will unite all citizens of Nagano to promote complete proliferation of energy efficiency and renewable energy in the prefecture. We will also build a disaster-resilient region with independent and distributed energy systems, expecting sustainable development of Nagano Prefecture.

December 6, 2019

Governor of Nagano Prefecture ABE Shuichi

## 5 今後の展望

### ◆ 連携により、今後実現が期待される様々な取組



# ご清聴ありがとうございました

